



国民春闘共闘

2024年度 第11号
2024年3月19日

国民春闘共闘委員会
〒113-8462 東京都文京区湯島2-4-4 全労連会館
☎ 03-5842-5621 FAX 03-5842-5622

24 国民春闘 3・14 全国統一行動

歴史的な大幅賃上げ求めストライキ決起

国民春闘共闘委員会は24春闘集中回答日翌日の3月14日、物価高騰の中、切実な要求に対して不十分な回答に抗議し、生活改善に資する歴史的な大幅賃上げ・底上げを求めて、ストライキを含めた全国統一行動を展開しました。

日本医労連 ベースアップ回答を示さない姿勢に抗議！ 74組合がスト決起



診療・介護・障害等報酬改定で2.5%のベースアップが盛り込まれましたが、医療・介護職場などでは「詳細が出ていない」ことを理由にベアを明確にしないが回答が相次いでいます。

日本医労連では、74組合がストライキ決起したのを含めて、全国で212組合・約7,000人(3月18日10時集約段階)が行動に立ち上がりました。

東京民医労働医会支部は3カ所で抗議のストライキを実施しました。

代々木分会では、早朝8時30分から全面ストライキに突入。病院前で60人が参加した集会後に、千駄ヶ谷駅前ですタンドイングと増員署名にとりくみ、NHKのテレビ取材も入りました。前日22時30分まで続いた団体交渉で理事会は、「ベースアップは実施する」としたものの診療報酬改定の詳細が出ていないため、明確な回答は先延ばしにしました。一時金は過去最低の年間2.7か月の回答となりました。吉川彰人委員長は全面ストへ立ち上がった理由を、「理事会は経営難の説明をするだけで、経営改善策の説明はなかった。ベアがあっても年間一時金の2年連続の引き下げによって、実質賃金は引き下げられたままになってしまう」と説明。医療・介護福祉労働者の賃金が抑えられていることについて、「他産業との格差が広がり、選ばれない職場になってしまう」と怒りを込めて語りました。

千葉県東葛病院では200人が参加する全面ストライキを実施。13日の団体交渉で労働組合は一時金を含む賃上げを要求しましたが、経営側は全く応えなかったため交渉は決裂し、ストライキ決行となりました。労働組合は「経営が厳しいことは理解しているが、現場は命懸けで仕事をしている」と要求をあきらめず、交渉を継続しています。

岡山県医労連は、県労連に結集し岡山駅前での統一行動を実施。生協労組おかやまがストライキに入ったため、医労連の指名ストライキ決起者も加わり総勢60人以上の宣伝は大迫力！増員署名はあっという間に109筆になり、TVや新聞などのマスコミもかけつけ、ケアワーカーのストライキに関心が高まりました。



熊本では、熊本民医労 52 名と全労災熊本支部 82 名がストライキを執行しました。合志市御代志交差点では、菊陽病院分会の組合員 20 名が宣伝行動を行いました。全医労熊本地区からも 10 名が連帯支援で参加し、県労連や県国公からも支援に駆けつけました。

そのほか、朝から水俣協立分会もストライキ宣伝行動、午後からは、くわみず分会などが下通でストライキ署名宣伝行動を行いました。



JMITU 3月7日に続き 25 支部分会が第二次統一ストライキに立ち上がる

3月7日の第一次産別統一ストライキ日に全国 39 支部分会でストライキに決起し、9 地本・地協でリリースストライキや回答促進・職場激励行動を行った JMITU では、回答の上積み求めて 14 日の第二次産別統一ストライキでも全国 25 支部（3月16日集約時点）がストライキに立ち上がりました。

通信産業本部は各地でスト集会と宣伝行動を展開。東京東部地協では全支部が半日ストライキに決起。130 人の参加で統一ストライキ集会を開催し、足立区・北千住の街をデモ行進でアピールしました。

埼玉地本は、県労連はじめ地域の仲間を含め 20 名規模による職場激励と回答促進の行動を終日展開しました。大阪地本は 3 支部が半日ストに入り 90 名が大阪総行動に参加。兵庫地本はリリースストライキを行うなど、各地で地域の行動やスト支援に積極的に参加しました。



回答促進強化旬間 4月1日～13日